



ASSIST

医療連携だより[アシスト]

2023.6
No.58

帝京大学医学部附属病院



contents

内科主任教授就任のご挨拶

帝京大学医学部附属病院 内科 主任教授、循環器センター長 上妻 謙

外科主任教授就任のご挨拶

帝京大学医学部附属病院 外科 主任教授 深川 剛生

脳神経内科主任教授就任のご挨拶

帝京大学医学部附属病院 脳神経内科 主任教授 小林 俊輔

眼科主任教授就任のご挨拶

帝京大学医学部附属病院 眼科 主任教授 井上 裕治



病院長ご挨拶

地域医療を支えていただいている先生方には、日頃より当院に多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。本年4月から病院長を拝命いたしました澤村でございます。

私は1985年東京大学医学部を卒業後、救急部を経て麻酔科に入局いたしました。震災のあった2011年に帝京大学に入職、以来麻酔科科長、集中治療部部長を務め、安心安全な手術・集中治療部門の運営に携わってまいりました。また2020年からは安全管理担当副院長、医療安全管理責任者としての役割も担ってまいりました。

当院では特定機能病院として質の高い医療を提供するため、「患者そして家族と共にあゆむ医療」という理念のもと、職員全員が一丸となって、「安心安全な高度の医療」、「患者中心の医療」、「地域への貢献」、「医療人の育成」、「医学研究の推進」という5つの基本方針で患者の皆さま方をお迎えできるような病院作りに取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症に対して、社会ではポストコロナの動きが加速していますが、病院では感染による重症化のリスクの高い患者さんを守るため、院内での感染拡大は避けなければなりません。その一方で特定機能病院としての従来の機能も果たすべく奮闘しているところであります。

今後も地域の医療機関・診療所の方々のご協力のもと、院内の職員間の連携を強化し、「地域の皆さまに安心していただける高度で質の高い医療を提供する」という目標にむかって邁進してまいります。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



澤村 成史

内科主任教授就任のご挨拶

帝京大学医学部附属病院 内科
主任教授、循環器センター長
上妻 謙

平素は帝京大学医学部附属病院との病診連携、病病連携にご理解、ご協力をいただき、まことにありがとうございます。2023年4月より循環器内科とともに内科の診療科長を仰せつかりました上妻 謙です。今までも循環器内科として医療連携に力を入れてまいりましたが、このたび内科の方でも同様に医療連携に邁進してまいります。

帝京大学医学部附属病院は、特定機能病院の使命として高度な検査・治療に特化して診療を行い、二人主治医制を徹底するようにいつも心がけています。当院内科においても消化器、呼吸器、腎・高血圧、内分泌・代謝、血液、膠原病、腫瘍、感染症など、さまざまな専門グループが特徴を活かした高度な医療を行っています。循環器内科も含め、全グループが交代で外来の初診を担当し、入院では総合内科というプラットフォームを用いて、グループの垣

根のない診療を心がけています。

新型コロナウイルスの蔓延によって医療体制の脆弱さが明らかになり、これからもまだ医療逼迫の事態に直面するときもあるかもしれません。しかし、そうした中でも必要な高度医療が提供し続けられるように、英知を集めて医療体制の整備を行っていきたいと思います。

超高齢社会を迎えて、医療と介護の境界が不鮮明になり、重症なのに高度医療の適応がない患者さんも多く、かかりつけの先生方が困っていらっしゃる症例も多いという声を耳にします。地域医療での対応について、すべての医療機関、介護施設が十分に協議していく必要があると考えています。まだまだ至らない面が多くあるかと思いますが、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



内科の医長や医局長の先生方と



帝京大学医学部附属病院 内科 主任教授、循環器センター長
上妻 謙 (こうづま けん)

1991年 東北大学医学部卒業
1991年 三井記念病院内科
1999年 エラスムス大学トラックスセンター留学
2001年 帝京大学医学部附属病院循環器内科
2013年10月より同医学部内科教授
2015年 帝京大学医学部附属病院循環器センター長、
心臓リハビリセンター長兼務
2017年 帝京大学医学部附属病院睡眠呼吸障害センター長兼務
2020年4月より帝京大学医学部附属病院管理担当副院長補佐
2023年4月より現職

【所属学会・資格】
日本内科学会評議員
総合内科専門医
専門医制度専門委員
日本循環器学会社員
循環器専門医
日本心血管インターベンション
治療学会理事長

外科主任教授就任のご挨拶

皆さまこんにちは。2023年4月より帝京大学外科学講座主任教授に就任いたしました深川剛生です。

外科学講座は、上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆脾外科、呼吸器外科、乳腺外科、内分泌外科、小児外科、ACS（Acute Care Surgery、集中治療を必要とする重症外傷外科及び救急外科）の8つの分野から成る大所帯です。私自身の専門は上部消化管外科ですが、すべての科のまとめ役を拝命いたしました。

医学の発展にはめざましいものがありますが、悪性腫瘍を中心に、外科手術が必要な患者さんはたくさんいらっしゃいます。しかも社会が高齢化するとともに、手術を受ける患者さんは、高齢の方や、様々な併存疾患をお持ちの方が多いのが現状です。そういった場合、外科以外でもすべての領域の専門家がそろって、各科が協力して診療にあたることのできる大学病院が重要であることは言うまでもありません。

当院では高度医療専門施設であるとともに地域の拠点病院として幅広い診療を目指しています。がんの治療はロボット手術に代表される高度に専門化した最新の外科手術だけではなく、日々進歩する薬物療法や放射線療法を

組み合わせた集学的治療を行っています。それだけではなく、毎日のケアを行う看護師、栄養士、理学療法士（リハビリテーション）、薬剤師、臨床心理士、緩和医療チーム（疼痛管理）、感染制御、安全管理など多くの職種が、外科の患者さんが安心して手術を受け、順調に回復していただくために見守っています。大学の外科学講座として、将来のために腕の良い優秀な外科医を育てることも重要な課題です。多くの若手外科医がスーパー外科医を目指して日夜頑張っています。大学には医学の発展に貢献する義務もあります。忙しい日常の中で時間を作って基礎的・臨床的な研究が数多く行われています。最近創設された先端総合研究機構との共同研究も積極的に進めています。

医局員一同力を合わせて頑張っていく所存でございますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



海外での手術

帝京大学医学部附属病院 外科 主任教授 深川 剛生



帝京大学医学部附属病院 外科 主任教授
深川 剛生（ふかがわ たけお）

1988年 東京大学医学部医学科卒業。同第一外科入局
2002年1月より2017年10月まで国立がん研究センター中央病院外科で胃がんの手術・研究に従事
世界各国で講演・手術指導を行う

2007年 米国留学
2017年11月 帝京大学医学部外科学講座上部消化管外科教授
2023年4月より現職

【所属学会・資格】
日本外科学会代議員、専門医、指導医
日本消化器外科学会専門医、指導医
日本胃癌学会理事
日本癌学会
日本臨床外科学会
日本内視鏡外科学会

脳神経内科主任教授就任のご挨拶

Common Diseaseも難病も、
最適な医療をお届けするために

帝京大学医学部附属病院 脳神経内科 主任教授 小林 俊輔

2023年4月より脳神経内科学講座の主任教授に就任しました小林俊輔と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

脳神経内科は長らく、治らない難病ばかりを扱うようなイメージだったかもしれませんが、実際は決して難病ばかりではありません。脳卒中、頭痛、痺れ、眩暈など、Common Disease、Common Complaintを幅広く診療しております。近年の医療の進歩は著しく、私たちの診療現場でも多くの新規治療が導入され、日々の診療でその手応えを感じています。ここではそのような例をいくつかご紹介いたします。

まず片頭痛です。脳神経内科で扱うCommon Diseaseの中でも患者数が多く、この数年で治療に大きな進歩がありました。従来の片頭痛発作の予防薬と比較して格段に効果が高いCGRP製剤が承認され、ひどい頭痛に苦しんでいた方々の笑顔を見ることができるようになりました。片頭痛自体はCommon Diseaseですが、CGRP製剤の投与には施設要件があるため、頭痛の頻度が高い片頭痛の患者さんを、生活の質の改善のため当科にご紹介いただく意義は大きいと思います。

そして、高齢化とともに患者数が増え続けているパーキンソン病です。治

療の選択肢が増えて患者さんの生活の質は向上してきています。最近の変化としてはMAO-B阻害薬やドパミン作動薬の貼付剤の充実があります。また、レボドパ配合持続皮下注射製剤もPMDAに承認され、進行期パーキンソン病の治療選択肢はさらに広がります。

脳卒中も脳神経内科の扱うCommon Diseaseです。一次脳卒中センターコア施設として、救急科、脳神経外科と連携して多くの脳卒中患者さんを受け入れています。

私たちはこれらCommon Diseaseをみる一方で、数多くの神経難病の患者さんの診療にあたっています。多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症は免疫系の異常が背景にある神経免疫疾患で、いずれも厚生労働省の指定難病です。急性増悪・再発時にはステロイド大量静注、免疫グロブリン大量静注、血漿交換などの治療を行い、その後も多くは継続的な免疫治療を要しますが、近年、生物学的製剤など治療薬の進歩が目覚ましく、治療成績が向上しています。

当科では最新のエビデンスに基づく最適な治療を心がけています。また、当科の園生前教授のもとで神経筋電気診断センターが整備されました。筋萎縮性側索硬化症、慢性炎症性脱髄性神経炎などの神経難病について、他の医



医局員や学生たちと

療機関でも診断に苦慮するような症例の紹介を受け付けています。

COVID-19パンデミックもようやく収束が見えてきました。板橋区・城北地区の先生方を結ぶためにも、神経疾患をテーマとした講演会を企画してまいります。連携医療機関の先生方におかれましては、機会がございましたらぜひご参加いただきますよう、お願い申し上げます。



帝京大学医学部附属病院 脳神経内科 主任教授
小林 俊輔 (こばやし しゅんすけ)

1993年 東京大学医学部医学科 卒業
1993年 東京大学医学部附属病院内科研修医
1994年 亀田総合病院レジデント
1996年 横浜労災病院神経内科後期レジデント
2002年 東京大学大学院医学系研究科修了(医学博士)
2002年 日本学術振興会特別研究員
2005年 英国ケンブリッジ大学特別研究員
2010年 福島県立医科大学神経内科学講座助教
2017年 同講師
2019年 同准教授

2020年 帝京大学医学部神経内科学講座准教授
2021年 同教授
2023年4月より現職

【所属学会・資格】
日本パーキンソン病・運動障害疾患学会評議員
日本高次脳機能障害学会代議員
日本神経心理学会評議員
日本神経学会代議員
日本内科学会認定医

眼科主任教授就任のご挨拶

帝京大学医学部附属病院 眼科 主任教授 井上 裕治

2023年4月より眼科学講座主任教授に就任いたしました井上裕治と申します。前任の溝田教授のもと、2年9ヶ月准教授を務めたのち、拝命いたしました。

眼科はご存知の通り、目を扱う診療科です。ひと口に目といっても、眼球だけでなく、まぶたである眼瞼、涙の通り道である涙道、眼球を取り囲んでいる眼窩なども扱っております。これらに関しては、目薬や飲み薬で治療するいわゆる内科的治療だけでなく、メスを握って切った張ったの外科的治療も行います。

私の専門は黄斑疾患及び網膜疾患です。これらに関して、内科的治療（メディカルレチナ）および外科的治療（サージカルレチナ）、両方行っています。

特に多い疾患としては加齢黄斑変性という病気です。網膜の黄斑部と呼ばれる中心の部分に、新生血管という正常ではない血管が生じ、出血を起こしたり、水がたまったりし、網膜が傷む（変性する）疾患です。50歳以上に多い疾患とされ、さらに高齢になるほど起こりやすくなります。放っておくと、中心部が暗くなったり、歪みが生じた

りして視力が落ちていきます。幸い視機能が完全に失われ真っ暗になってしまいう方は稀ですが、多くは0.1より視力が低下してしまいます。

網膜は変性が生じると良くなることはないので、新生血管の勢いを抑え、網膜機能を維持させる治療があります。それが、抗VEGF薬という特殊な薬を眼球内（硝子体）に注射をする方法です。非常に高価な薬ですが、即効性があり、多くの人に効果を発揮します。的確に診断し迅速に治療をする体制を整えていますので、安心して受診していただきたいと考えています。

また、網膜剝離などの病気に対して網膜硝子体手術も行っています。

当科は初代の丸尾教授から、斜視診療に非常に力を入れており、現在も国内有数の手術数を誇ります。林教授、太根（たね）助教を中心に診療をしております。今後は斜視や私の専門分野だけでなく、角膜や眼瞼、涙道疾患などの専門外来も併せて充実させ、大学病院ならではの専門的な治療を行い、地域の患者さんにより良い医療を提供していくよう努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。



細隙灯顕微鏡（スリットランプ）で患者さんの眼を診察



帝京大学医学部附属病院 眼科 主任教授
井上 裕治（いのうえ ゆうじ）

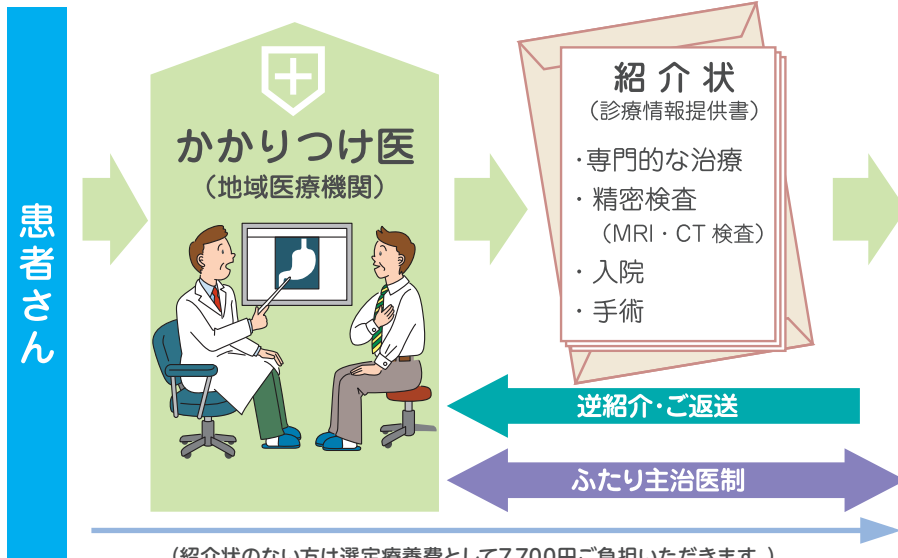
1999年 東京大学医学部医学科卒業
東京大学医学部眼科学講座入局
その後、東大病院などの勤務を経て
2002年 東京大学大学院医学系研究科に進学し、
網膜幹細胞に関して研究し、学位（医学博士）を取得
2006年 東京大学医学部附属病院眼科助教
九州熊本の出田眼科病院、埼玉医科大学総合医療センター、虎の門病院を経て
2015年 自治医科大学糖尿病センター・眼科講師、2018年准教授
2020年 帝京大学眼科学講座准教授
2023年4月より現職

【資格】
日本専門医機構認定
眼科専門医
【専門分野】
黄斑疾患
網膜変性疾患
網膜硝子体手術

帝京大学病院では紹介状があれば初診でも予約※ができます。

※事前にお電話下さい

医療連携の流れ



(紹介状のない方は選定療養費として7,700円ご負担いただきます。)

帝京大学医学部附属病院 予約専用(医療連携室) 03-3964-1498

予約受付
時間 平日 8:30~17:00
土曜日 8:30~12:30

初診受付

診療受付
時間 平日 (予約あり)
8:30~14:30
(予約なし)
8:30~11:30
13:00~14:30
土曜日 8:30~11:30

紹介状をお持ちの患者さん

- ① 予約電話(03-3964-1498)までお電話ください。
電話予約の際にご確認させていただく項目
(お名前、生年月日、性別、電話番号、症状・病名など)
- ② 予約完了
- ③ 当日は15分前までに初診受付までお越しください。

紹介状をお持ちでない患者さん

- ◎ 初診受付 【診療受付時間】
平日 8:30~11:30/13:00~14:30
土曜日 8:30~11:30
直接初診受付へお越しください。
※当日の診察状況によっては受診できない場合もございます。



上の地図は略図のため、実際の地形とは異なりますのでご注意ください。

- 1 JR埼京線 十条駅
 - 北口より徒歩約10分
 - 北口ロータリータクシー乗り場より約6分
- 2 都営三田線 板橋本町駅
 - A1出口より徒歩約13分
 - A1出口より約6分
- 3 JR埼京線 板橋駅
 - 西口①番のりばより
 帝京大学病院経由、王子駅行き 乗522 (約8分)
 「帝京大学病院」バス停下車
 西口より約9分
- 4 JR各線 赤羽駅
 - 東口⑤番のりばより
 高円寺駅北口行き 乗311 (約11分)
 「姥ヶ橋」バス停下車徒歩約5分
 - 西口⑥番のりばより王子駅行き 乗501 (約14分)
 「上十条四丁目」バス停下車徒歩約5分
 西口より約12分
- 5 JR京浜東北線・東京メトロ南北線 王子駅
 - 北口⑥番のりばより
 帝京大学病院経由、板橋駅行き 乗522 (約12分)
 「帝京大学病院」バス停下車
 北口より約9分
- 6 JR各線・東京メトロ各線 池袋駅
 - 西口より約16分
- 7 東武東上線 上板橋駅
 - 北口①番のりばより王子駅行き 乗54 (約13分)
 「姥ヶ橋」バス停下車徒歩約5分
- 8 東武東上線 ときわ台駅
 - 北口①番のりばより王子駅行き 乗54 (約9分)
 「姥ヶ橋」バス停下車徒歩約5分
 北口より約12分

帝京大学医師会からのお知らせ

【産業医研修会について】

帝京大学医師会では、日本医師会認定産業医のための産業医研修会を毎年開催しております。帝京大学医学部附属病院で研修を受けながら、認定に必要な50単位を1年間で全て取得することが容易となりますので、是非ご参加ください。開催日程等の詳細は帝京大学医師会ホームページをご覧ください。

帝京大学医師会ホームページ

URL <http://www.med.teikyo-u.ac.jp/ishikai/workshop/>

▼詳細はこちら



※所要時間は日中平常時、最短時間の目安となっておりますので、時間帯や道路状況により異なります。

🚗 タクシーをご利用の場合 🚌 バスをご利用の場合 🚶 徒歩の場合